



絶好のマラソン日和

第30回青山高原つつじクォーターマラソン大会 (6月4日)

青山高原で、第30回青山高原つつじクォーターマラソン大会が行われました。この大会では、3kmの部、5kmの部、10.55kmを走るクォーターの部の3部門に分かれて走ります。

ランナーは、高原の雄大な景色を眺めながらコースを駆け抜け、また、ゴール地点では、起伏の激しいコースを走るランナーを拍手で迎えたり、お互いの健闘をたたえ合う姿が見られました。

この日は全国各地から1,065人が参加し、そのうち1,020人が見事完走を果たしました。

▶ランナーは爽やかな汗を流しながら力いっぱい走りまわりました。



◀クォーターの部では760人が参加し、スタートの合図で勢いよく走り始めました。

みんなで支えよう

認知症サポーター養成講座 (6月6日)

ゆめぼりすセンターで、認知症サポーター養成講座を開きました。

認知症サポーターとは、認知症についての知識や対応方法などを正しく理解し、自分のできる範囲で認知症の人や家族を見守る支援者のことです。

参加者は、認知症を引き起こす原因や症状などの説明を受けたり、講師が演じた劇を通じて、認知症の人との接し方などを学びました。

この日は23人が参加し、初めて受講した人には、認知症サポーターの証であるオレンジリングが配られました。



◀キャラバンメイト(認知症サポーターを養成する講師)による劇の様子



▶認知症予防のトレーニングも体験しました。

水道の仕組みがわかったよ

ゆめが丘浄水場小学生施設見学会 (6月6日)

ゆめが丘浄水場では、小学生の社会科授業の一環として施設見学の受け入れを行っています。

この日は、上野西小学校の児童121人が参加し、川の水から水道水をつくる実験や、実際に浄水場の施設へ入り、水道水ができる工程の順に各施設を見学しました。

子どもたちは、熱心に職員の説明を聞き、普段は入れない施設の中を探検気分で見学していました。



▲浄水場の施設を見学している様子



▶川の水に薬を混ぜて水の中の泥を固める実験に興味深く眺める子どもたち



お知らせ拡大版

お知らせ

催し

募集

まちかど通信

コラム

図書・救急など

英語に触れる習慣を

親子英語サークル アメリカンパイ
(6月13日)



▲アルファベットの種類や発音を教わる子どもたち
▶歌に合わせて両手のそれぞれの指の呼び方を学びました。



阿山保健福祉センターで、親子英語サークル アメリカンパイが開かれました。

アメリカンパイは、未就園児までの子どもとその保護者を対象に、簡単な英語を使って歌や踊りを楽しむ交流の場として親しまれている教室で、今年で13年目を迎えます。

今年度初めての開催となったこの日は、17組の子どもと保護者が参加し、親子で英語に触れる時間を楽しみました。



こども広場

「水の事故に注意しよう」

今年も暑い夏がやってきました。この季節は、水遊びが盛んになると同時に、水の事故が増えます。

水の事故は、川や池、プールなどいろいろな場所で行われます。それらの事故の多くは、一人ひとりのちよつとした注意と正しい行動で防ぐことができます。

事故が起こりそうな場所

家の周りでは、井戸、溝、柵や囲いのない池や堀、手すりの低い橋、用水路などが危険です。特に、雨が降った後は水の量が多くなっているため、近づかないようにしましょう。

川は流れがゆるやかに見えても、強い力を持っています。流されて溺れてしまうことがあるので注意しましょう。

川や池に落ちたときは

『ウイテマテ!』

川や池に落ちてしまったら、慌てずに浮いて待つことが大切です。助けを呼ぶために手を挙げると体が沈んでしまうので、慌てずに水

面で仰向けになって顔を水の上に出し、浮いた状態になりましょう。服や靴も浮くために力を貸してくれるので、脱がずに浮いた状態で救助を待ちましょう。

友達が川や池に落ちたら

助けようとして川に入ると一緒に溺れてしまうことがあります。自分たちだけで助けようとせずに、大人を呼びましょう。バッグやランドセルなど身につけているものを使うと、楽に浮くことができるので渡してあげましょう。そして、常に声を掛け勇気付けて救助が来るのを待ちましょう。

一人ひとりが注意しよう

大切なことは、危険な場所がなぜ危険であるかということを理解することです。危険であることを理解していても、遊びに熱中すると周りの状況が見えなくなります。一人ひとりが注意して、事故を起こさないようにしましょう。また、家を出る際には行き先と帰る時間を家族に伝えるようにしましょう。

【問い合わせ】 消防救急課

☎ 24・9116 FAX 24・9111